

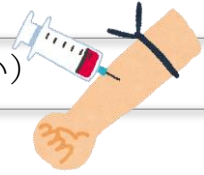


腫瘍マーカーは腫瘍細胞が産生する物質の血中濃度を測定する検査

「腫瘍マーカー」検査の目的は？

①がんの診断補助として（この検査だけでは、がんの診断はできない）

②治療経過の判定、経過観察、再発のモニタリングとして



①診断補助

癌が疑われる場合、その臓器の画像診断を行い、補助として腫瘍マーカーを検査する

このとき疑われる臓器に対して特異性の高い腫瘍マーカー（裏面参照）を選択する



②予後診断

癌が産生し検出される腫瘍マーカーは癌の進行度に比例して増加し、治療などで癌が小さくなると低下するので予後の判定に役立つ

腫瘍が画像では小さくなっていても腫瘍マーカーが高い場合は転移の可能性がある

根治治療にて腫瘍マーカーは約1週間で正常にもどるが、再発すると徐々に上昇してくるため術後のモニタリングに必要

「腫瘍マーカー」検査にはピットホール（落とし穴）があることを知っておく

①非特異反応（癌物質がなくても間違っ上昇する）

測定対象物質と構造類似物との交差反応

検体中成分の干渉（自己抗体、投与薬剤、リウマチ因子、喫煙等生活習慣など）

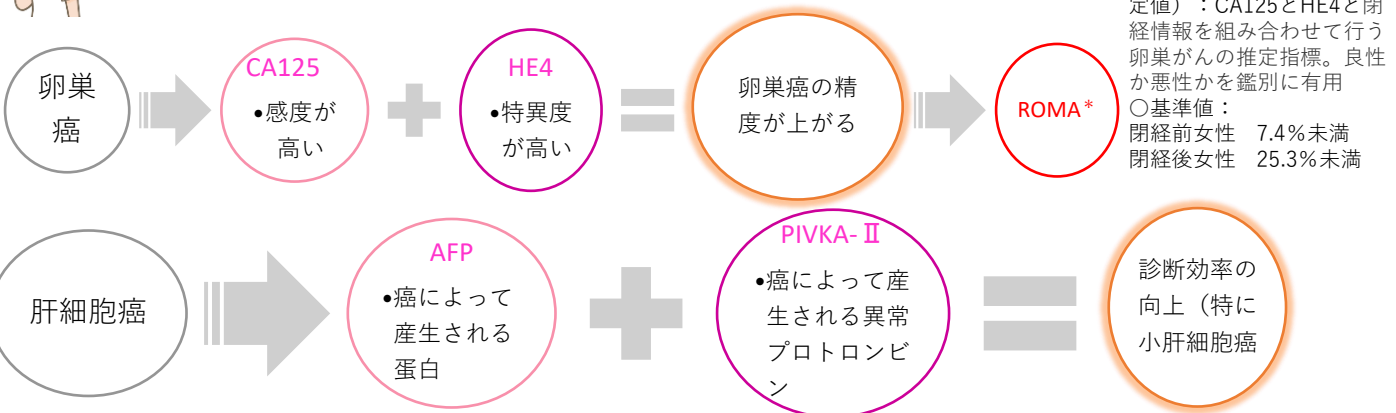
②早期の癌や特異度の低い腫瘍マーカーでは基準値以下となる

ある程度進行しないと腫瘍マーカーは上がってこない

臓器に対して有用性の低い（☆が少ない）腫瘍マーカーでは上がらない



複数の腫瘍マーカーを併せて検査することで欠点を補うことができます



腫瘍マーカー

特に有用性が高い ★★★★★
 有用性が高い ★★★★★
 有用性が認められる ★☆☆☆☆
 ☆が多いほど腫瘍マーカーとして有効な検査



肺癌

- 腺癌**
 CEA ★★★★★
 SLX ★☆☆☆☆
扁平上皮癌
 シフラ ★★★★★
 SCC抗原 ★★★★★
小細胞癌
 ProGRP ★★★★★
 NSE ★★★★★

胃癌

- CA72-4 ★★★★★
 CEA ★★★★★
 CA19-9 ★★★★★
 CA125 ★☆☆☆☆
 NCC-ST-439 ★★★★★

胆嚢胆管癌

- CEA ★★★★★
 CA19-9 ★★★★★
 Span-1 ★☆☆☆☆
 DUPAN-2 ★☆☆☆☆
 NCC-ST-439 ★★★★★

- 血液疾患**
 (ATL、非ホジキンリンパ腫)
 可溶性IL-2R (sIL-2R)
 ★★★★★

膀胱癌

- NMP22 ★★★★★
前立腺癌
 PSA ★★★★★
 PSAF/T比 ★★★★★

子宮頸癌

- SCC抗原 ★★★★★
 CEA ★☆☆☆☆

食道癌

- SCC抗原 ★★★★★
 CEA ★★★★★
 CA-19-9 ★★★★★
 抗p53抗体 ★★★★★

乳がん

- CA15-3 ★★★★★
 CEA ★★★★★
 NCC-ST-439 ★★★★★
 BCA225 ★★★★★

膵臓癌

- CA19-9 ★★★★★
 CEA ★★★★★
 SPAN-1 ★★★★★
 DUPAN-2 ★★★★★
 エラスターゼ ★★★★★
 SLX ★★★★★
 NCC-ST-439 ★★★★★

原発性肝癌

- AFP ★★★★★
 AFP-L3分画 ★★★★★
 PIVKA-II ★★★★★

腎臓癌

有用なマーカーなし
 ★☆☆☆☆

大腸癌

- CEA ★★★★★
 CA19-9 ★★★★★
 CA724 ★★★★★
 STN ★★★★★

卵巣癌

- CA125 ★★★★★
 HE4 ★★★★★
 CA602 ★★★★★
 CA54/61 ★★★★★
 CA72-4 ★★★★★
 STN ★★★★★
 CA19-9 ★★★★★
 AFP ★★★★★

